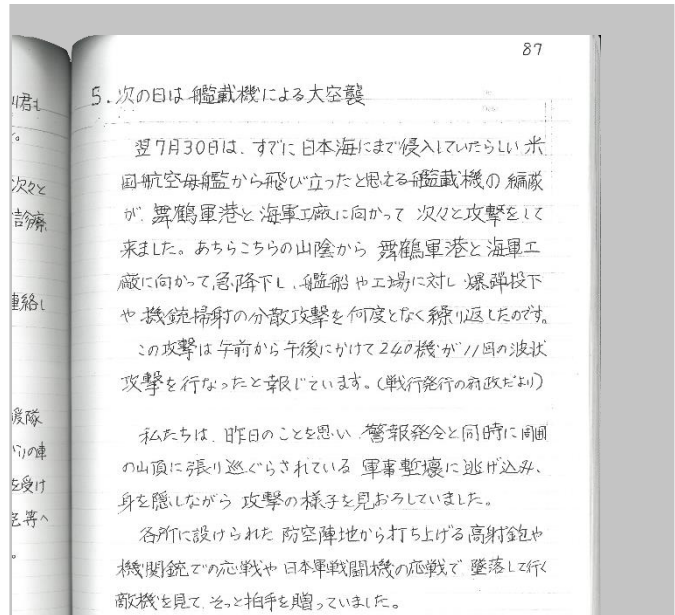
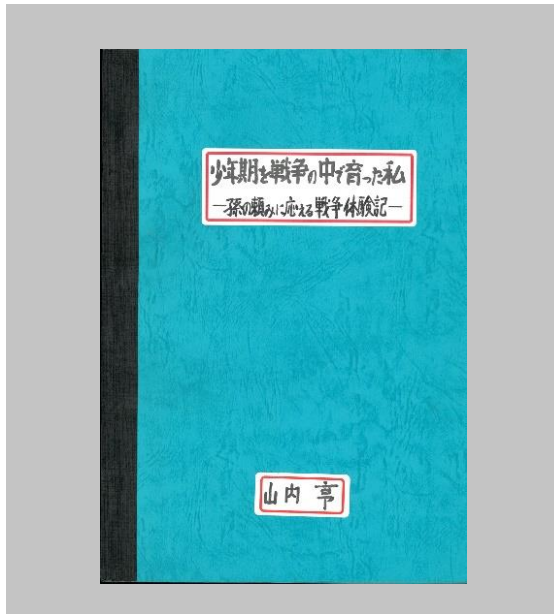


# 今月の逸品

NO. 54 2021.08~2021.09



## 「少年期を戦争の中で育った私 - 孫の頼みに応える戦争体験記」

山内 亨 作 (2020年頃作成)

京都教育大学の前身の1つである、京都師範学校卒業生の山内亨さんが作成された、戦争体験記である。孫娘悠加さんの求めに応じて作成された全120ページに及ぶ手作りの冊子で、当時師範学校予科の生徒であった山内さんの目からみた戦時下の体験が詳細に綴られている。学術的にも、アジア・太平洋戦争末期における学徒動員当事者の経験を記す貴重な資料である。

学徒動員について説明を加えておきたい。学徒動員とは、戦争遂行を目的として、高等・中等教育機関の学生・生徒(学徒)を戦時下の労働力として生産活動に従事させる一連の施策のことである。アジア・太平洋戦争下の日本においては、1938年の国家総動員法に基づく勤労動員を指すのが一般的とされる。38年以降の高等・中等教育機関における集団勤労作業を前史として、41年の青少年学徒食糧飼料等増産運動以後、その施策は本格化した。同年8月には高等・中等教育機関に学校報国隊が組織され、43年6月閣議決定の「学徒戦時動員体制確立要綱」で「教育錬成内容の一環」と位置付けられた頃から、軍需工場への勤労動員が本格化している。以後敗戦まで、多くの学徒が動員され戦時下の労働力になるとともに、軍需工場を標的とした爆撃の犠牲ともなった。

「体験記」の記述によれば、学徒動員は、山内さんが京都師範学校予科2年次のことであった。1944(昭和19)年9月5日から住友金属名古屋軽金属工場に動員された山内さんは、同年12月の東南海地震を経験したのち、「地震をまっていた」かのような米軍機の来襲を受けた。一時帰省を挟んだ1945年5月17日には寮に焼夷弾が落ち、6月9日には工場が爆撃を受け、いずれも仲間が犠牲になった。7月中旬には舞鶴市の海軍工廠にうつるも、29日には米軍機が大型爆弾を投下、山内さんも爆風に吹き飛ばされて気を失うという経験をしている。

まさに「九死に一生を得た」といってよいだろう山内さんの一連の戦争体験の記述は、戦後76年を経た時代を生きる私たちにも、当時の過酷な状況をリアルに伝えている。「戦争を始めない強固な意志と行動力の大切さを学ぶ」(「体験記」114ページ)というまとめの言葉も印象的である。

参考文献：吉田裕ほか編『アジア・太平洋戦争辞典』吉川弘文館、2015年

執筆者：神代健彦(教育学科 准教授)

※附属図書館で展示しています。